城北

平成26年7月1日現在

総世帯数	3,525
総人口	7,680
男	3,672
女	4,008

地区発見 蟻ヶ崎台町会

平成の二ュータウン

高台の新しい町会

蟻ヶ崎台は神沢地区りんご園から放光寺あたりまでの町会です。昭和54年から宅地造成が進み平成2年町会名が蟻ヶ崎台として発足し、15地区の中で最も新しい町会で、高台に213世帯が生活しています。大半の家は玄関までのアプローチが長くとってあります。またそれぞれ段差を利用し個性的な家が沢山あります。

眺望抜群

この町に住むようになった人から話を聴くことができました。異口同音に「空気が澄んでいる」「四季がはっきりと肌で感じられ気候も良く景色が良い」また「仕事の関係で転勤し住むならここが一番」と住民になられた県外からの人も多いのが特徴です。

高台から松本城や弘法山など一面に見える景色は絶景です。ただ、近くに店が無く、買い物は車が無いと不便で、今年の大雪では除雪に苦労しました。

未来にむけて

昭和60年代から平成の初め頃までは子どもの声であふれにぎやかだった町も、成人して家を離れ三世代家族が少なくなり、高齢者だけの世帯が多くなっているのは、どの町会でも共通な課題です。3・11の東日本大震災をきっかけに町会の人々に絆の大切さの意識がめばえ、そば打ち名人が公民館で手打ちそばをふるまったり、徳瀬山公園では、毎年にぎやかな、花見の宴が開かれたりしています。また朝鮮学校跡地に新たに43戸の家が建ち若い世帯が入居してくるようです。これから、にぎやかな声が期待されます。

自然観察会

野麦峠を訪ねて

6月10日に波多腰忠行さんを講師に27名が参加して行われました。明治から大正にかけて、1672メートルの野麦峠を越えて13歳前後の娘達が岡谷の製糸工場で働く為に越えただけでなく、飛騨から松本へ鰤などを運ぶ生活の道でした。

野麦とはクマザサの実の事をいい大凶作の年には実を粉にして団子にしたとも言われています。また、ササの縁が白く隈どりがされている事からクマザサともいわれています。工女の姿を想い、ツクバネソウやマイヅルソウの花を観ながら麓から1時間10分程で峠に着きました。峠の周りを散策したり、元気な人は展望台まで登り、同じ道を下ってきました。

帰路はさわんど温泉の足湯に浸り疲労を回復しました。昨年9月から城北地区住民となった木庭さんは「自然だけでなく、昔の歴史を偲びながら工女の峠を歩くことができよかった」と話していました。雨にも会わず、新緑がまぶしくエゾハルゼミの声を聴きながら心地よい疲れが残る一日でした。

新企画 ぶらぶら町歩き

毎週月曜日に、城北地区の各町会を歩いて楽しもうという「街中探検隊」が、6月の第一週から城北公民館の主催で始まりました。

「街中探検隊」にはこれといった目的は無く、気の向くまま足の向くままに道沿いの花や樹木を見たり、建造物談義をしたり、時には知り合いのお宅の庭拝見など勝手気ままの軽いお散歩です。

「60年も住んでいるのにこんな小路は知らなかった」とか「町会の境界は壁ひとつ」とか結構新しい発見があります。

緑の花を咲かせる桜の一種のギョイコウ（御衣黄）を育てているお宅では、来年のお花見の予約までしてきました。

「ぶらぶら町あるき」は、毎週月曜日の午前10時から約1時間、参加自由・予約不要・城北公民館集合です。なお、豪雨は中止ですが、小雨決行です。

ウエストン講座

『日本アルプスの登山と探検』の著書で、日本アルプスを世界に紹介したウオルター・ウエストンを良く知ろうという城北公民館主催の講座が、4回の予定で始まりました。

1回目の講座では、長野県文化財保護協会員で四賀の市川恵一さんが「ウエストンが歩いた道」をテーマに話しました。

ウエストンは、1891年（明治24年）に、初めて上田から保福寺峠を越えて槍ヶ岳登頂を目指しました。

ウエストンが保福寺峠に着いたのは、あたりが暗くなり始めた午後6時過ぎで、ウエストンは「私たちの心惹かれていたあの大連峰の全景が突然眺められ、その荘厳さにはただ驚嘆するばかりだった」と峠から見た槍ヶ岳や常念岳、乗鞍岳など北アルプスの大パノラマに驚きをもって記しています。

市川さんらは、1986年（昭和61年）にウエストンを讃える記念の石碑を保福寺峠と青木村地籍に建てられました。

次の講座の開催は8月22日です。

いちごの風

◀▶運動会　開智小学校

▲運動会　旭町小学校

運動会中止、代わって抽選会
▼　蟻ヶ崎北町会

▲ 運動会　白金町会 ▲